

『建物と地盤の動的相互作用を考慮した応答解析と耐震設計』正誤表

* 「修正刷」の欄は、以下を表す。

- 1 : 第1刷のみの修正
 1,2 : 第1刷・第2刷ともに修正

	頁	行	誤	正	修正刷
第I編	92	下から7行目	・・・埋込み基礎部の質量 m_B は・・・	・・・埋込み基礎部の重量は・・・	1
	93	上から2行目	各階の質量 m_0 は・・・	各階の重量は・・・	1
	110	図3	地盤総厚 H	地盤層厚 H	1
	155	上から3行目	・・・ <u>回歸したものである。</u>	・・・ <u>回歸したものであり、地盤条件が限定されたものである。</u>	1
	156	上から9行目	1000本程度までの大規模群杭に対して・・・	少数本杭から多数本杭に対して・・・	1
	156	下から6行目	<u>回転ばねの群杭係数は、群杭係数の評価法-1と同様に1とする。ただし、大規模群杭の場合には、回転ばねを過大評価する可能性があるので、式(6.2.12)～式(6.2.20)に示す評価式²⁾を用いた方がよい。</u>	式(6.2.12)～式(6.2.20)に示す評価式 ²⁾ を用いる。	1
	157	上から8行目	<u>L : 工学的基盤までの杭長 (支持層貫入部を除いた杭長)</u>	L : 支持層貫入部を除いた杭長	1
	157	上から10行目	支持層地盤の S_V	支持層地盤の S_V (式(6.3.34)中の G_e を支持層のせん断剛性 G_b に置換)	1
	157	上から12行目	<u>ここでは、支持層への貫入が小さい場合も想定して、・・・</u>	文献3)には記述されていないが、支持層への貫入が小さい場合には、・・・	1
	157	上から15行目	<u>大規模群杭については式(6.2.21)～・・・</u>	式(6.2.21)～・・・	1
	158	下から3行目	・・・Francisの式 ⁷⁾ とGazetasの式 ⁸⁾ を用いる簡便法	・・・Francisの式 ⁷⁾ を用いる簡便法 ²⁾	1
	159	上から16行目	(ii) FrancisとGazetasの式	(ii) Francisの式を用いる簡便法	1
	159	上から17行目	・・・Gazetasの式を用いて、・・・を評価する。	・・・Gazetasらによる方法 ⁸⁾ を参考に、・・・を評価する ²⁾ 。	1
	159	下から6行目	<u>$c_{gSi} = 2\rho_i B(V_{L_{ai}} + V_{S_i})$ (Gazetasの式)</u>	$c_{gSi} = 1.57\rho_i B(V_{L_{ai}} + V_{S_i})$	1
	159	下から1行目	また、Gazetasの式は、図6.3.2に示すように、・・・	また、式(6.3.6)は、・・・	1

第1編	160	図 6.3.2	<p>図 6.3.2 Gazetas の式 の概念図</p>	<p>図 6.3.2 土方らの方法による概念図²⁵⁾</p>	1
	160	上から 1 行目	V_{La} は Lysmer が提案した等価な P 波速度で、・・・得られたものである。	V_{La} は Lysmer の波動速度で、・・・得られたものである。係数 1.57 は、図 6.3.2 に示すように、直径 B の円形断面と等価な周長の正方形断面として求められており、薄層法との比較により妥当性が検証されている ²⁵⁾ 。また、文献 ²⁶⁾ では、円形を外接する正方形断面として式(6.3.6)の係数を 2 としているが、この場合についても後述の図 6.3.9 と同様に薄層法に対応することが確認されている。	1
	160	上から 8 行目	・・・アプローチが考えられる。	・・・アプローチが考えられる ²²⁾ 。	1
	160	下から 7 行目	・・・式(6.3.10)が得られる ⁴⁾ 。	・・・式(6.3.10)が得られる。	1
	160	下から 2 行目	・・・式(6.3.12)が得られる。	・・・式(6.3.12)が得られる ²²⁾ 。	1
	161	上から 4 行目	・・・適用する。	・・・適用する ²²⁾ 。	1
	161	上から 8 行目	・・・採用することとする。	・・・採用することとする ²²⁾ 。	1
	161	上から 12 行目	・・・基礎幅を式(6.3.7)に・・・	・・・基礎幅を式(6.3.6)に・・・	1
	170	上から 10 行目	・・・考える。	・・・考える。なお、ここでの f_g は、地盤の上下方向の 1 次卓越振動数であることに留意する。	1,2
	177	上から 10 行目	・・・求めた地下深度 ¹⁵⁾ を・・・	・・・求めた地下深度 ¹²⁾ を・・・	1
180	図 6.5.6 の凡例	(正)	<p>●— 最大変位分布 -□- 地表面最大変位生起時刻での変位分布 ⋯△⋯ 最大せん断歪み γ_{max} に層厚 h を乗じて杭先端から合計した変位分布 ($\sum \gamma_{max} \times h$)</p>	1	
181	図 6.5.7 の凡例	(正)	<p>●— 動的解析 ⋯— 静的解析 (最大変位分布) - - - 静的解析 (地表面最大変位生起時刻での変位分布) — 静的解析 (最大せん断歪みから設定した変位分布)</p>	1	

	193	文献の追加	<p>25) 土方勝一郎・柳下文雄・富井隆：群杭の動的インピーダンス簡便評価法，日本建築学会構造系論文集，No.455，pp.73-82，1994</p> <p>26) 長谷川正幸：群杭における水平地盤反力係数 $k_h B$ の実用算定法，清水建設研究報告，Vol.69，pp.37-46，1999</p> <p>27) 土方勝一郎・成川匡文ほか：Penzien 型モデルによる多数本杭で支持された杭基礎建屋の地震応答解析法（その1）～（その5），日本建築学会大会学術講演梗概集，B-2，pp.359-368，1999</p>	1	
第II編	214	表 8.3.7 詳細法 CASE-2 Y 方向 回転 地盤減衰係数	13.85×10^6	13.85×10^5	1
	281	図 10.3.19 の中段	<p>(正)</p>		1
	281	図 10.3.20 の上段	<p>(正)</p>		1
281	図 10.3.20 の中段	<p>(正)</p>		1	

CD-ROM	付録2用プログラム				
	フォルダ名	誤	正	修正刷	
	5_埋め込み基礎_2層地盤 6_埋め込み基礎_3層地盤	基礎入力堂	基礎入力動	1	
	付録4用計算シート				
	シート名	セル位置	誤	正	修正刷
	地盤データ	AW1セル	(空欄)	Lysmer's Wave Velocity	1,2
		AW2セル	(空欄)	VLa(m/s)	1,2
		AW3セル	(空欄)	=AQ3*3.4/PI/(1-O3)	1,2
		AW4セル	(空欄)	=AQ4*3.4/PI/(1-O4)	1,2
		AWnセル	(空欄)	=AQn*3.4/PI/(1-On)	1,2
		AW102セル	(空欄)	=AQ102*3.4/PI/(1-O102)	1,2
		AX1セル	(空欄)	VLa*hi	1,2
		AX2セル	(空欄)	VLa*hi	1,2
		AX3セル	(空欄)	=AW3*AN3	1,2
		AX4セル	(空欄)	=AW4*AN4	1,2
		AXnセル	(空欄)	=AWn*ANn	1,2
		AX102セル	(空欄)	=AW102*AN102	1,2
		AY1セル	(空欄)	Σ VLa*hi	1,2
		AY2セル	(空欄)	Σ VLa*hi	1,2
		AY3セル	(空欄)	=SUM(AX:AX)	1,2
AZ1セル		(空欄)	Σ hi	1,2	
AZ2セル		(空欄)	Σ hi	1,2	
AZ3セル		(空欄)	=SUM(AT:AT)	1,2	
BA1セル		(空欄)	平均の VLa	1,2	
BA2セル		(空欄)	VLa(m/sec)	1,2	
BA3セル	(空欄)	=AY3/AZ3	1,2		
BB1セル	(空欄)	Vla から評価した地盤の卓越振動数	1,2		
BB2セル	(空欄)	T(sec)=4*Li/VLa	1,2		
BB3セル	(空欄)	=4*AZ3/BA3	1,2		
振動数データ	A5セル	地盤の卓越周期	地盤の水平方向の卓越周期	1,2	
	A6セル	(空欄)	上下地盤ばね評価に用いる卓越周期	1,2	
	B6セル	(空欄)	“① (B7セル) か② (B8セル) の選択を行う”	1,2	
	C6セル	(空欄)	=IF(B6=B7,C7,IF(B6=B8,C8))	1,2	
	D6セル	(空欄)	=1/C6	1,2	

	B7 セル	(空欄)	① 盤の水平方向の卓越周期の 1/2 倍	1,2
	C7 セル	(空欄)	=C5/2	1,2
	D7 セル	(空欄)	=1/C7	1,2
	B8 セル	(空欄)	② VL _a から評価した卓越周期	1,2
	C8 セル	(空欄)	=地盤データ!BB3	1,2
	D8 セル	(空欄)	=1/C8	1,2
Y 方向の水平 地盤ばね	K8 セル	=K7*J4	=K7^(4/3)/(4*\$C\$7)^(1/3)	1,2
	M8 セル	=M7*L4	=M7^(4/3)/(4*\$C\$7)^(1/3)	1,2
	O8 セル	=O7*N4	=O7^(4/3)/(4*\$C\$7)^(1/3)	1,2
	Q8 セル	=Q7*P4	=Q7^(4/3)/(4*\$C\$7)^(1/3)	1,2
	S8 セル	=S7*R4	=S7^(4/3)/(4*\$C\$7)^(1/3)	1,2
	U8 セル	=U7*T4	=U7^(4/3)/(4*\$C\$7)^(1/3)	1,2
	W8 セル	=W7*V4	=W7^(4/3)/(4*\$C\$7)^(1/3)	1,2
	Y8 セル	=Y7*X4	=Y7^(4/3)/(4*\$C\$7)^(1/3)	1,2
	AA8 セル	=AA7*Z4	=AA7^(4/3)/(4*\$C\$7)^(1/3)	1,2
	AC8 セル	=AC7*AB4	=AC7^(4/3)/(4*\$C\$7)^(1/3)	1,2
回転と上下の 地盤ばね	B11 セル	=3.4*B10/3/(1-B7)	=3.4*B10/PI()/1/(1-B7)	1,2
	A19 セル	$C_R = \rho V L a \pi r^2$ (kN・m・s/rad)	$C_R = \rho V L a \pi r^2$ (kN・m・s/rad)	1,2
上下地盤ばね の周波数特性	A3 セル	地盤 1 次振動数の 2 倍以下での・・・	地盤 1 次振動数以下での・・・	1
	A4 セル	地盤 1 次振動数の 2 倍以上での・・・	地盤 1 次振動数以上での・・・	1
	C7 セル	= 振動数データ!D2	「上下方向の連成系の振動数」を直接入力 (“シート保護の解除” コマンド (“ツール” メニューの “保護” サブメニュー) を実施)	1
	C8 セル	=振動数データ!D5	=振動数データ!D6	1,2